

開会あいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 北島 通次

ただいま御紹介をいただきました、埼玉県の保健医療部で副部長をしております北島と申します。

輸血フォーラムの開催にあたりまして、埼玉県を代表して一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

御参会の皆様には、本当にお忙しい中、そしてとても寒い中、こうしてお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

また、埼玉県の保健医療行政の推進に対しまして、ひとかたならぬ御協力と御支援を日頃頂戴しておりますこと、この場をお借りして改めて御礼を申し上げたいと存じます。

御案内の通り、本県では75歳以上の後期高齢者の人口が現在は約77万人とされておりますが、8年後の2025年には、これが1.5倍の118万人まで増加することが見込まれておりまして、その増加のスピードというのも全国一の速さということになっております。

さらに県内では、近々大規模な病院の開設なども予定されておりまして、現在の埼玉県地域保健医療計画では、平成29年度までに、現在から1,854床あまりの増床が計画されているところでございます。全国的に増床が抑制されている中では、極めて珍しい県の1つということが言えると思えます。

このように、高齢化や、医療の高度化などが進む中で、血液の需要の増加も見込まれているところでございます。

そこで県では、血液製剤を長期そして安定的に確保供給をしていくために、日本赤十字社と連携をいたしまして、若年層向けのキャンペーン、400mL献血、そして成分献血の推進など、様々なキャンペーンを行いまして、献血者の確保に努めているところでございます。

中でも、教育委員会などと連携をいたしまして、高等学校における校内献血の推進に力を入れてまいりました。その結果、平成27年度の本県における高校生の献血者数は一万人を超えまして10,303人となり、平成19年度から実に9年連

続日本一という結果となっております。

こうした取り組みもございまして、埼玉県では、昨年度、合わせまして235,485人の方に献血に御協力をいただき、3年ぶりに献血者数の減少に歯止めがかかったところでございます。

これも、本日御参会の皆様の御協力の賜物であると改めて深く感謝の意を表するところでございます。

一方で、今後も安定的に血液製剤を確保していきますためには、医療機関の皆様によります、適正な血液製剤の使用という取り組みが必要不可欠となっております。

今後とも726万人おります県民が、必要な時に必要な医療が安心して身近なところで受けられますよう、引き続き御支援、御協力を賜りますよう切に願う次第でございます。

本県におきましては、先程御挨拶をいただきました埼玉医科大学病院の池淵先生を始めといたしまして、県内の医療従事者の方方で組織されておりますこの埼玉県合同輸血療法委員会、こちらで輸血用血液製剤の安全かつ適正な使用につきまして、先進的な取り組みが色々御検討され更には実践されておりますこと、大変私どもも心強く思っているところでございます。

本日のフォーラムでは、この委員会で行われまして調査検討に関する報告や教育講演、そして特別講演が行われると伺っております。

本フォーラムを通じまして、県内の医療機関における輸血療法の諸問題が活発に議論されまして、輸血の安全性確保と血液製剤の適正使用につきまして理解がより一層広まっていくことを期待してやまないところでございます。

結びになりますが、合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様の御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、私からの挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。